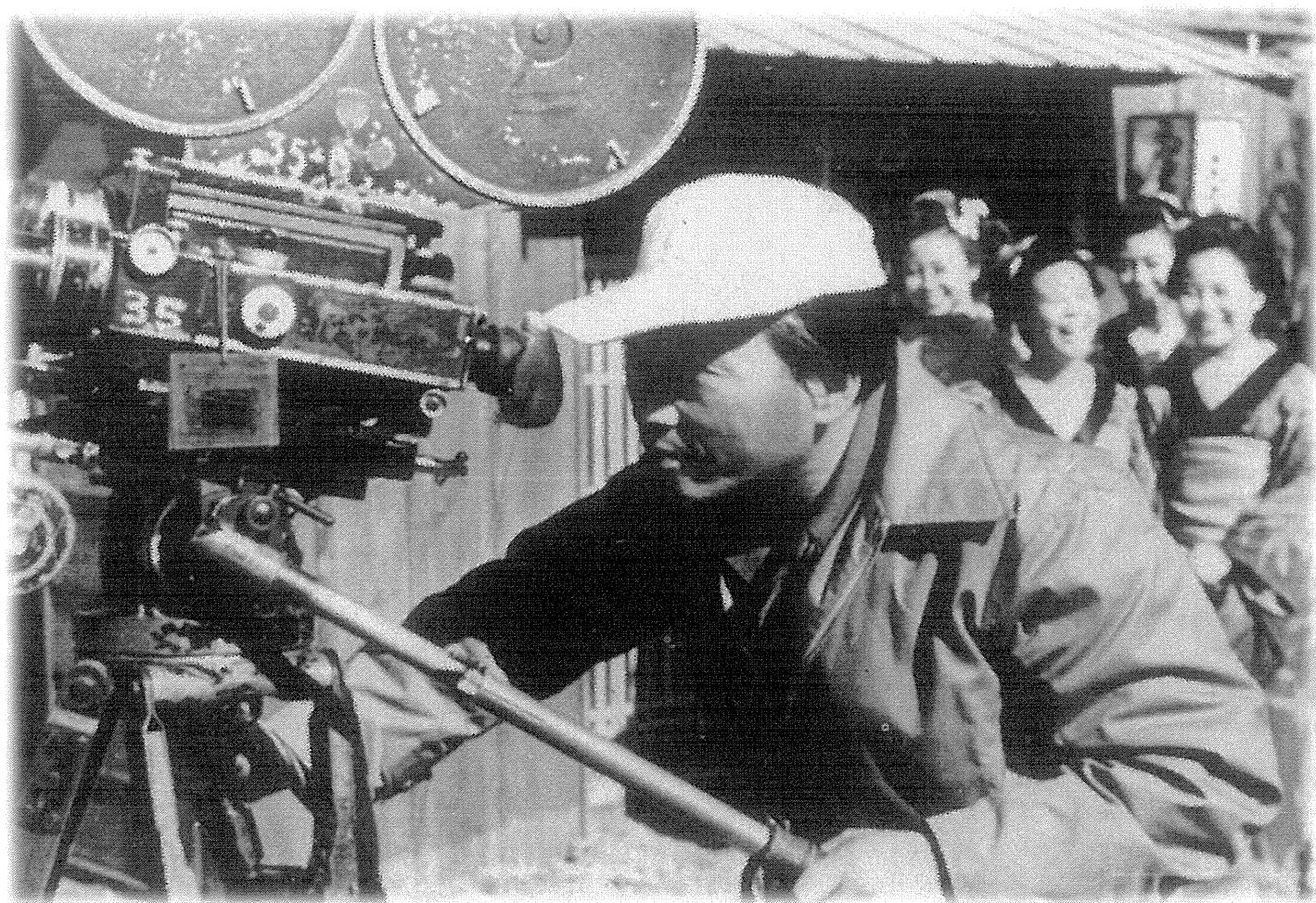


矢島が生んだ日本喜劇映画の神様

映画監督 斎藤寅次郎展

生誕120年記念



◎ 喜劇映画の神様

さい とう とら じ ろう
齋 藤 寅 次 郎

出身地 由利本荘市（矢島）
1905 年（明治 38 年）～1982 年（昭和 57 年）

昭和初期の無声映画時代から数多くの喜劇映画
を手掛け、「ナンセンスギャグ」「ドタバタ」「アチャ
ラカ」などと呼ばれる、破天荒な作風で人気を集
めた名映画監督。



事 績

矢島町舘町生まれ。本名寅二郎。明治薬学校を経て 1922 年（大正 11 年）松竹
に入社。「桂小五郎と幾松」で初監督。「エノケンの法界坊」「ロッパの大久保彦左衛門」
「東京五人男」「憧れのハワイ航路」「アジャパー天国」「ハワイ珍道中」「一丁目一番地」
などを監督。古川ロッパ、横山エンタツ、花菱アチャコ、柳家金語楼など、人気スター
を主演に、喜劇映画を次々と世に送り出した。その数は 250 本にも上る。また、
美空ひばりの映画も手掛け、ひばりの才能の発見者ともいわれた。

◎著書

『日本の喜劇王』清流出版 2005

◎参考文献

齋藤「自作を語る」キネマ旬報 136 1956

岩松雄「評伝・齋藤寅次郎」キネマ評伝 136 1956

高野喜代一『喜劇の王様・齋藤寅次郎』私家版 1989

秋田魁新報社『秋田人名大事典（第二版）』秋田魁新報社 2000

今野銀一郎『ふるさと矢島の先人先覚集』 2010

斎藤寅次郎略年譜

- 明治38年 1月30日、矢島町収入役だった斎藤孝一郎の二男として矢島町館町に生まれた。小学校卒業とともに祖父の意志を受け上京し、親戚の宇津木病院の書生のかたわら明治薬学校へ入学。後、星製薬宣伝部で映写技師をする。
- 大正11年 映写技師よりも、映画を作るほうがいいと、叔父の斎藤佳三を介して、松竹キネマ映画研究所に入所。講師陣に小山内薫、山田耕作、斎藤佳三、鈴木伝明等がいて、所長は野村芳亭。
- 大正13年 大久保忠素監督のもとで助監督。
- 大正14年 20才で監督に昇進。
第1回作品「桂小五郎と幾松」その外主として時代劇を年10本余制作
- 昭和3年 女優浪花友子(本名石津霊子)と結婚。昭和5年長男稔、同10年二男晶康、同13年三男厚生出生。喜劇を主に制作。その後フリーになり、喜劇の大監督、臣匠としての名声を得る。
- 昭和10年 「この子捨てざれば」でキネマ旬報ベストテン授賞。
- 昭和12年 東宝移籍。1時間もの年5本制作。
- 昭和15年 トーキー時代を迎え、エノケン、ロッパ、エンタツ、アチャコ、金語楼が多く出演（多くの喜劇人を育てる）。
- 昭和18年 戦争が激しくなり、軍部の要請で昭和20年まで航空ものを撮る。
- 昭和21年 アメリカ駐留軍、音楽ものを希望、藤山一郎、霧島昇ら出演。この頃、何本かアメリカ向け輸出された。「東京五人男」ヒット。
美空ひばり、伴淳三郎、三木のり平等活躍したのだと自慢ものの流行。
- 昭和35年 はじめての天然色映画「ハワイ珍道中」ハワイロケ。主演、田端義夫、アチャコ、江利チエミ等出演。この頃からテレビの影響で映画観客が減少しはじめる。
- 昭和37年 映画界引退（57才）。
- 昭和57年 5月1日死去（77才）。勲四等瑞宝章に叙せられる。

〜〜〜 斎藤寅次郎の少年時代 〜〜〜

「わが映画人生」寅次郎自伝

羽後の国は由利郡 鳥海山の麓 矢島町が私の生まれた処。

私（本名寅二郎）は兄弟8人の中の二男、兄は総領の甚六で家の手伝いは何一つしなかった。それにひきかえ二男の私は、自ら進んで祖父（登記所の書記）と父（役場の収入役）の弁当を運んだり、買い物を使い走りをした。それには誰も知らないわけがあった。

母は隣村の豪農の娘、近所の女房どもに小金を貸し、利息を取りに回るのは私の役目、その度にお駄賃を貰ってお菓子を食べるのが楽しみだった。

それでも足りずに妹の貯金を盗んで食べた。その晩は必ず怖い夢を見る。次の日、そっと返しておく。しばらくすると又盗む、夢を見る、また返す、をくり返した。

妹の子守りをして小便だらけになった時は特別手当を要求した。だんだんずうずうしくなって妹のへそくりを全部使い果たしたところで、悪事露見、母は怒った。平常はやさしい母であったが、嘘と盗みには厳しかった。

.....

寅次郎は（教師をした温厚な篤実な兄）にも優る綿密な頭脳の持ち主でありいつも考えることに無駄はなかった。賢さを決して人前にみせることはなくむしろ陽気で、突飛で、人の意表に出る行動が多かったので、長男はおとなしいのに、この子はゆくゆくは、家門に傷をつけるのではないかと、祖父や父母に危惧と懸念を与えつづけて来たものであった。



寅次郎夫人

父孝一郎

斎藤監督

生家前で

高野喜代一著「喜劇映画の王様 斎藤寅次郎監督」より



館町にある斎藤寅次郎監督の生家

※斎藤監督の生家は2018年に解体され、現在は空き地となっています。-

〜〜〜斎藤寅次郎に映画界入りを後押しした

叔父斎藤佳三（本名、佳蔵）〜〜〜

映画界入りを熱望していた寅次郎は待望の蒲田撮影所に入ることになるが、寅次郎の自伝にも書いているように、数え年 10 歳で活動写真の旗持ち 18歳で活動写真音楽隊 20歳で撮影所入社

それから監督業を引退する昭和 37 年までの 37 年間、喜劇映画の王様、または神様と尊称されるなど他の追隨を許さぬ金字塔を日本映画史のなかに記録したのであった。

その栄光と映画人生の運命を決した人こそ、父のいとこである。つまり叔父の斎藤佳三の存在であった。「映画の仕事するなら監督になれよ」この一言が寅次郎を奮立たせた。

多才な芸術家 斎藤佳三

美術家として、音楽家として、麗名をはせた

斎藤佳三（本名佳蔵）は、明治 20 年（1887）、矢島町に生まれた。父斎藤忠一郎は、矢島郵便局長、県会議員をつとめた町の名士。



映画界入りの導人、父、叔父のイトコ
斎藤佳三（本名佳蔵）は、明治 20 年（1887）に矢島町に生まれる。父は矢島郵便局長、県会議員をつとめた町の名士。

秋田市第一中学校を卒業、音楽家を志して上京。東京音楽学校師範科に入学、ここで詩人川路柳虹、劇作家小山内薫、音楽家山田耕作、演出家土方与志、詩人北原白秋、吉井勇、三木露風、西条八十等を識り親交を深めてゆくが、人に勧められたこともあって、音楽学校を中退し東京美術学校に入学した。明治 42 年（1909）、23 歳のときであった。

25 歳のとき、小歌曲「樹立」ほか数篇を発表する。この頃、近衛秀麿、秋田県出身の舞踏家石井漠らと交遊するようになる。美術学校卒業後、山田耕作とともに渡欧し、ベルリン王立工芸院で構成美学を専攻する。帰朝後は、音楽界に美術界に欧州知識を身につけた新進気鋭として存分に活躍する。

「リズム模様」という創作デザインなど新作を居次々に発表し、大いに斯界の注目をひき、その真価を発揮し、日本ではじめて「商業デザイン」、「工業意匠」なる言葉を使った。

～～～監督斎藤寅次郎夫人 女優浪花友子～～～

昭和3年、女優浪花友子と結婚。本名は石津霊子（よしこ）。

岡山県児島郡下津井。瀬戸大橋の近くの生まれ。言うまでもなく斎藤寅次郎夫人になった人。

2人が結婚したとき、寅二郎は 23 歳、友子は 19 歳、寅次郎は 20 歳で監督に昇任していた。

姉様は岡山県池田侯に奉公していてその気質と美貌を殿に見出されて側室になったという程、美人一家で評判であった。・・・・・・・・・・・・・・・・

友子の父は、威勢のいい気っぷ。粋でいなせな遊び人、顔だちもぐっとあかぬけしてまるで芝居の役者みたいだといわれ、本人も役者になれるものならなってみたいものだと思い続けて来ただけに、我が娘、よしこが、浪花友子としてデビューしたときの喜び様たらなかった。

友子はこうして父親に生きがいを与え父の性格も鉄火であったから、父親をたててなんでも相談することが一つの親孝行であった。家庭に入ってから父をよく面倒をみたが、それが子供たちに無言の教育となっている。

寅次郎は父親の面接2度目で及第した。もう誰からも友子を連れてゆかれる心配はなくなったから、これから大監督をめざして思う存分やれる。寅次郎は、肚の底から意欲が湧き上がってきた。撮影がはじまると2ヶ月も家に帰らぬことが多い程売れっ子監督の地歩をかためていったのは、矢張り家庭をもった安定感からであろう。寅次郎は、友子こそ家の宝だという心を忘れたことはなかった。



女
優
時
代
の
浪
花
友
子

▶
浪
花
友
子
-
19
才



〜〜斎藤寅次郎監督と車寅次郎〜〜

男はつらいよ「フーテンの寅」のネーミングエピソード



渥美清、山田洋次、斎藤寅次郎

松竹の大ヒットシリーズ、山田洋次監督の「男はつらいよ」の主人公は、誰もが知っているとおり渥美清が演じる車寅次郎ことフーテンの寅さんである。

山田洋次監督がシリーズ作品を手がけるときに、松竹の城戸四郎会長に相談した結果主人公の名前が「寅次郎」に決定したようである。

城戸会長は斎藤寅次郎が新進気鋭の監督として活躍していた頃の蒲田松竹の撮影していたのを身近で見ていた人物であった。

このため、新しい映画の主人公に斎藤監督の名前を使い「車寅次郎」に決定し、映画のヒットを祈願した。その後、映画界から引退した監督は、「最近、寅次郎喜劇と称する輩が多い」との理由で、突然使い慣れた斎藤寅次郎から本名の寅二郎を使うようになった。

やはり監督としては、「男はつらいよ」シリーズが流行して寅次郎の名前が喜劇の中で頻繁に使われていることが気に入らなかったようである。監督としては「寅次郎の元祖は私だ」という自負があったのであろう。

このことを聞いた山田洋次監督と渥美清が斎藤監督を訪ね、「長年監督の名前の寅次郎を使わせていただき申し訳ありません」とお詫びし、和解している。

その後、山田洋次監督は「斎藤寅次郎という素晴らしい監督が活躍していた」と講演会等で語り、斎藤監督自身も「私の後継者は山田洋次君である」と語っていたこともあったようである。

斎藤寅次郎と車寅次郎、映画を通じて名前が一致したエピソードである。

～～～マラソンと斎藤寅次郎監督～～～

古希を迎え本格マラソンへ！

昭和 50 年 1 月 30 日で満 70 歳になった、

人生の一区切りを記念するためマラソンを始めたのである。

仕事をしている時は後輩や俳優仲間から草野球の誘いがあったのであるが、もはや孫たちの野球でさえ、相手にされなくなってしまった。

そこで考えたのがマラソンである。

野球は相手が必要だ、人数もそろわなければ出来ない。マラソンは 1 人で出来る、何時でも自分の都合の良い時好きな場所で好きなだけ走れば良い、私がマラソンを始めた事を東宝時代の友人根津昇がタートル協会へ紹介してくれた。

これで私の本格的なマラソン時代が始まったのである。

川崎、田子の浦、山中湖、千葉、青梅と 10 キロ専門に走り回ったのであるが、足首を痛めるくらいで内蔵には変化はなかった。次第に若い頃のマラソンの調子を思い出し誠に快調そのものであった。

そして 52 年 7 月、第 10 回世界高齢者マラソン（ベルギー）、第 2 回マスターズ世界大会（スウェーデン）へ出発したのである。・・・・・・・・・・・・・・・・



千葉県 第 1 回県民マラソン大会-
に出場した監督-
昭和 54 年 3 月 31 日



昭和 50 年 世界中高齢者走大会-
スウェーデン・ストックホルム-
42.19 km 完走

美空ひばりを世に送り出した斎藤監督

初の吹き込みと映画初出演

ひばりは、夜汽車の窓におでこをくっつけ、外を見つづけていた。

昭和 24 年、2 月初旬の粉雪の舞い狂う夜である。2 月 1 日から 4 日間にわたる有楽座でのコロムビア大会「春のヒットパレード」を終えた直後であった。斎藤寅次郎監督の『のど自慢狂時代』に出演するために、東横映画の京都撮影所に向かっている。映画初出演である。・・・・・・・・

京都・太秦の撮影所に着き、スタッフルームにあいさつに行った。

夕食休みになると、斎藤監督がひばりに優しい口調で言った。「なにか、歌ってごらん」

ひばりは、まず、笠置シズ子の『ヘイヘイブギ』を身ぶり手ぶりで歌い始めた。

斎藤監督は、ひばりのブギのうまさに舌を巻いた。・・・・・・・・

斎藤監督は、確信をもった。〈これは掘出しものだぞ・・・・・・・・〉

斎藤監督の映画は、下町の人情喜劇や時代劇でも、いわゆる世話物的なものが多かった。

そのため、ほとんどの映画に子役が出ていた。

そのような子どもに比べ、ひばりはひとときわ光って見えた。・・・・・・・・

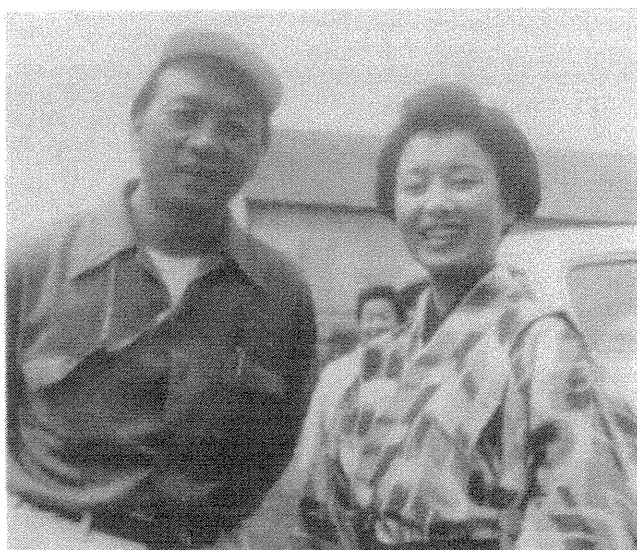
斎藤監督は、ひばりのまったく物怖じしない態度に、すっかり惚れ込んでいた。

〈これからも、おれの映画に使っていこう・・・・・・・・〉

(昭和 63 年 7 月 7 日号『週聞新潮』小説ひばり一代 大下英治作より一部)



美空ひばりに演技指導する斎藤寅次郎監督



斎藤監督と映画俳優たち

斎藤監督と出演者の記念写真及び演技指導写真



金語楼・エノケンと



益田喜頓・美空ひばり他



美空ひばりと



堺駿二・清川虹子と



エノケンと



ロッパの大久保彦左衛門



エンタツと



ハワイロケ



ハワイ珍道中



田端義夫と



東京5人男のスタッフ



青空天使



かごや太平記



うかれ狐千本桜



凸凹巖窟王



大江戸人気男



若山富三郎、雪村いずみと



島倉千代子



斎藤寅次郎監督を囲んで

『怪猫腰抜け大騒動』

斎藤寅次郎監督映画の世界

寅
次
郎
の
世
界



斎藤寅次郎監督作品全207本

番号	西暦	和暦	作品名	配給元	主 演
1	1926/1/30	大正15年	鈍急之進	松竹蒲田	森野五郎
2	1926/2/14	1 5 年	渦巻く血刃の情火	松竹蒲田	藤野秀夫
3	1926/5/25	1 5 年	桂小五郎と幾松	松竹蒲田	森野五郎
4	1926/7/1	1 5 年	悲恋心中ヶ丘	松竹蒲田	野寺正一
5	1926/10/1	1 5 年	怒濤	松竹蒲田	森野五郎
6	1926/11/6	1 5 年	曲馬団の姉妹	松竹蒲田	
7	1926/11/12	1 5 年	噫河野巡查	松竹蒲田	葉山純之輔
8	1927/1/5	昭和 2 年	暗闘	松竹蒲田	森野五郎
9	1927/2/17	2 年	高田の馬場	松竹蒲田	森野五郎
10	1927/4/23	2 年	魔道	松竹蒲田	森野五郎
11	1927/7/22	2 年	殺陣時代	松竹蒲田	吾妻三郎
12	1927/8/19	2 年	仇討違い	松竹蒲田	市川松之助
13	1927/9/8	2 年	島原美少年録	松竹蒲田	市川松之助
14	1927/11/1	2 年	不景気征伐	松竹蒲田	渡辺篤
15	1927/11/26	2 年	悲恋剣闘	松竹蒲田	吾妻三郎
16	1928/1/5	3 年	浮気征伐	松竹蒲田	星光
17	1928/2/3	3 年	活動狂	松竹蒲田	渡辺篤
18	1928/2/10	3 年	果報は寝て待て	松竹蒲田	渡辺篤
19	1928/2/25	3 年	チンドン屋	松竹蒲田	武田春郎
20	1928/3/16	3 年	急げや急げ	松竹蒲田	吉谷久雄
21	1928/4/28	3 年	混戦七人組	松竹蒲田	新井淳
22	1928/5/12	3 年	娘頑張れ	松竹蒲田	
23	1928/6/22	3 年	天晴れ美男子	松竹蒲田	渡辺篤
24	1928/8/3	3 年	彼女と海	松竹蒲田	吉川英蘭
25	1928/10/13	3 年	亀公	松竹蒲田	吉川英蘭
26	1928/12/26	3 年	孝行やり直し	松竹蒲田	大山健二
27	1929/1/5	4 年	万歳	松竹蒲田	吉谷久雄
28	1929/2/22	4 年	鵜の目鷹の目	松竹蒲田	吉谷久雄
29	1929/4/6	4 年	色気たっぷり	松竹蒲田	大山健二
30	1929/5/26	4 年	明け行く空	松竹蒲田	高尾光子
31	1929/6/28	4 年	岡辰押切帳	松竹蒲田	新井淳
32	1929/7/19	4 年	壹〇〇,〇〇〇,〇〇〇円	松竹蒲田	斎藤達雄
33	1929/8/23	4 年	愛して頂戴	松竹蒲田	渡辺篤
34	1929/9/20	4 年	女難歓迎腕比べ	松竹蒲田	斎藤達雄
35	1929/11/23	4 年	未完成の恋	松竹蒲田	渡辺篤

36	1929/12/15	4 年	全部精神異状あり	松竹蒲田	星光
37	1930/1/10	5 年	美人暴力団	松竹蒲田	飯田蝶子
38	1930/1/27	5 年	たゝかれ亭主	松竹蒲田	渡辺篤
39	1930/5/9	5 年	好きで一緒になったのよ	松竹蒲田	星ひかる
40	1930/5/24	5 年	あら！その瞬間よ	松竹蒲田	新井淳
41	1930/7/13	5 年	石川五右衛門の法事	松竹蒲田	渡辺篤
42	1930/7/27	5 年	奪はれた唇	松竹蒲田	渡辺篤
43	1930/8/8	5 年	海坊主悩まし	松竹蒲田	斎藤達雄
44	1930/8/22	5 年	アラ！大漁だね	松竹蒲田	星ひかる
45	1930/10/10	5 年	恋の借金狂ひの戦術	松竹蒲田	吉川英蘭
46	1930/11/28	5 年	色気だんご騒動記	松竹蒲田	渡辺篤
47	1930/12/5	5 年	煙突男	松竹蒲田	
48	1931/1/5	6 年	精力女房	松竹蒲田	月田一郎
49	1931/1/10	6 年	モダン籠の鳥	松竹蒲田	渡辺篤
50	1931/4/3	6 年	この穴を見よ	松竹蒲田	渡辺篤
51	1931/6/6	6 年	女は強くて独りもの	松竹蒲田	横尾泥海男
52	1931/8/15	6 年	何が彼女を裸にしたか	松竹蒲田	井上雪子
53	1931/8/15	6 年	娘の意気高し	松竹蒲田	吉川英蘭
54	1931/10/31	6 年	彼女の興奮	松竹蒲田	高尾光子
55	1931/12/18	6 年	深夜の溜息	松竹蒲田	大山健二
56	1932/2/4	7 年	三太郎満州出征	松竹蒲田	国島莊一
57	1932/5/13	7 年	熊のハツ切り事件	松竹蒲田	坂本武
58	1932/7/8	7 年	チャップリンよなぜ泣くか	松竹蒲田	
59	1932/7/29	7 年	トコ張さん	松竹蒲田	新井淳
60	1932/9/22	7 年	可愛い後家さん	松竹蒲田	富士竜子
61	1932/10/20	7 年	女は寝て待て	松竹蒲田	小倉繁
62	1932/12/26	7 年	スットン狂	松竹蒲田	小倉繁
63	Jan-33	8 年	奥方の猛力	松竹蒲田	小倉繁
64	1933/4/13	8 年	大変な処女	松竹蒲田	小倉繁
65	1933/6/8	8 年	彼女の金塊	松竹蒲田	小倉繁
66	1933/7/27	8 年	男やもめの巖さん	松竹蒲田	
67	1933/9/14	8 年	あわてものゝ熊さん	松竹蒲田	山田長正
68	1933/10/5	8 年	和製キング・コング	松竹蒲田	山口勇
69	1933/12/14	8 年	しっかりせよと抱き起し	松竹蒲田	小倉繁
70	1934/7/19	9 年	なめられた彼奴	松竹蒲田	突貫小僧
71	1934/9/6	9 年	腰の抜けた女	松竹蒲田	突貫小僧
72	1934/11/8	9 年	出臍の力	松竹蒲田	小倉繁
73	1935/1/31	10 年	噫薄情	松竹蒲田	山口勇
74	1935/3/21	10 年	子宝騒動	松竹蒲田	小倉繁

75	1935/5/9	10年	馬帰る	松竹蒲田	小倉繁
76	1935/8/8	10年	この子捨てざれば	松竹蒲田	小倉繁
77	1935/10/24	10年	弥次喜多行進曲	松竹蒲田	磯野秋雄
78	1935/12/19	10年	新婚三壘打	松竹蒲田	
79	1936/1/10	11年	わたしのラバさん	松竹蒲田	
80	1936/1/30	11年	車に積んだ宝物	松竹蒲田	小倉繁
81	1936/4/15	11年	女は何故怖い	松竹大船	小倉繁
82	1936/4/22	11年	人生は六十から 老いて益々旺なり	松竹大船	小倉繁
83	1936/6/20	11年	幽霊が死んだら	松竹大船	小倉繁
84	1936/8/29	11年	黒豹脱走曲	松竹大船	山田長正
85	1936/10/22	11年	泣かせてね	松竹大船	小倉繁
86	1936/11/20	11年	七転八倒	松竹大船	阿部正三郎
87	1937/1/7	12年	七つ児誕生	松竹大船	小倉繁
88	1937/2/25	12年	恩愛二筋道	松竹大船	岡村文子
89	1937/5/6	12年	この親に罪ありや	松竹大船	坂本武
90	1937/6/24	12年	仰げば尊し	松竹大船	笠置衆
91	1937/10/28	12年	吼えろ銀ちゃん	松竹大船	坂本武
92	1937/11/25	12年	母の勝利	松竹大船	葉山正雄
93	1938/6/21	13年	エノケンの法界坊	東宝映画東京	榎本健一
94	1938/8/11	13年	水戸黄門漫遊記 東海道の巻	東宝映画京都	徳川夢声
95	1938/9/18	13年	水戸黄門漫遊記 日本晴れの巻	東宝映画京都	徳川夢声
96	1938/11/9	13年	ロッパのおとうちゃん	東宝映画東京	古川緑波
97	1939/1/11	14年	ロッパの大久保彦左衛門	東宝映画東京	古川緑波
98	1939/3/14	14年	娘の願ひは唯一つ	東宝映画東京	高峰秀子
99	1939/5/1	14年	思ひつき夫人	東宝映画東京	山野一郎
100	1939/6/15	14年	ロッパの子守唄	東宝映画東京	古川緑波
101	1939/7/12	14年	エンタツ、アチャコの 新婚お化け屋敷	東宝映画東京	エンタツ アチャコ
102	1939/9/30	14年	東京ブルース	東宝映画東京	川田義雄
103	1939/12/29	14年	エンタツ、アチャコ、 虎 造の初笑ひ国定忠治	東宝映画東京	エンタツ アチャコ
104	1940/3/13	15年	ロッパの駄々っ子父ちゃん	東宝映画東京	古川緑波
105	1940/7/10	15年	ハモニカ小僧	東宝映画東京	芦廼家雁玉
106	1940/11/30	15年	明朗五人男	東宝映画京都	エンタツ
107	1940/12/18	15年	親子鯨	東宝映画京都	渡辺篤

108	1941/2/26	1 6 年	子宝夫婦	東宝映画東京	徳川夢声
109	1941/4/22	1 6 年	人生は六十一から	東宝映画東京	エンタツ
110	1941/6/25	1 6 年	素晴らしき金鉱	東宝映画京都	柳家金語楼
111	1942/5/7	1 7 年	南から帰った人	東宝映画	古川緑波
112	1942/11/5	1 7 年	磯川兵助功名噺	東宝映画	榎本健一
113	1944/8/31	1 9 年	敵は幾万ありとても	東宝	古川緑波
114	1945/3/29	2 0 年	突貫駅長	東宝	古川緑波
115	1945/12/27	2 0 年	東京五人男	東宝	エンタツ アチャコ
116	1947/1/24	2 2 年	聳入り豪華船	東宝	榎本健一
117	1947/6/17	2 2 年	見たり聞いたりためしたり	新東宝映画	灰田勝彦
118	1947/9/16	2 2 年	浮世も天国	新東宝映画	アチャコ
119	1948/1/13	2 3 年	誰がために金はある	新東宝映画	灰田勝彦
120	1948/5/18	2 3 年	それは在る夜の事だった	新東宝映画	大日方伝
121	1948/7/13	2 3 年	唄まつり百万両	新東宝	柳家金語楼
122	1948/9/6	2 3 年	野球狂時代	東横	杉狂児
123	1949/1/11	2 4 年	嫁入聳取花合戦	新東宝	アチャコ
124	1949/3/28	2 4 年	のど自慢狂時代	東横	灰田勝彦
125	1949/6/7	2 4 年	新東京音頭 びっくり五人男	新東宝	エンタツ アチャコ
126	1949/8/29	2 4 年	男の涙	新東宝	岡晴夫
127	1949/10/10	2 4 年	あきれた娘たち	新東宝	柳家金語楼
128	1949/12/13	2 4 年	おどろき一家	大泉映画	入江たか子
129	1950/4/1	2 5 年	憧れのハワイ航路	新東宝	岡晴夫
130	1950/4/9	2 5 年	続・向う三軒両隣 第三話 どんぐり歌合戦	新東宝	柳家金語楼
131	1950/4/26	2 5 年	戦後派親父	新東宝	柳家金語楼
132	1950/5/7	2 5 年	続・向う三軒両隣 第四話 恋の三毛猫	新東宝	柳家金語楼
133	1950/5/20	2 5 年	青空天使	大泉映画	アチャコ
134	1950/9/9	2 5 年	東京キッド	松竹大船	美空ひばり
135	1950/12/1	2 5 年	天皇の帽子	東横	
136	1950/12/31	2 5 年	とんぼ返り道中	松竹京都	美空ひばり
137	1951/3/1	2 6 年	海を渡る千万長者	松竹京都	アチャコ
138	1951/4/20	2 6 年	初恋トンコ娘	松竹大船	柳家金語楼
139	1951/7/27	2 6 年	母を慕いて	松竹京都	美空ひばり
140	1951/8/31	2 6 年	東京河童まつり	新東宝	柳家金語楼
141	1951/11/8	2 6 年	吃七捕物帖 一番手柄	松竹京都	高田浩吉
142	1952/1/7	2 7 年	唄くらべ青春三銃士	松竹京都	鶴田浩二

143	1952/1/15	27年	大当りパチンコ娘	新東宝	柳家金語楼
144	1952/2/29	27年	娘十八びっくり天国	新東宝	柳家金語楼
145	1952/5/15	27年	腰抜け伊達騒動	松竹京都	高田浩吉
146	1952/7/2	27年	トンチンカン三つの歌	東宝	榎本健一
147	1952/7/24	27年	歌くらべ荒神山	新東宝	広沢虎造
148	1952/9/18	27年	トンチンカン捕物帖 まぼろしの女	東宝	榎本健一 アチャコ
149	1952/10/30	27年	びっくり三銃士	松竹京都	大木実
150	1952/12/18	27年	底抜け青春音頭	新東宝	田端義夫
151	1953/1/3	28年	珍説忠臣蔵	新東宝	アチャコ
152	1953/2/25	28年	総理大臣の恋文	東宝	三益愛子
153	1953/4/1	28年	トンチンカン 怪盗火の玉小僧	宝塚映画	伴淳三郎
154	1953/4/15	28年	アジャパー天国	新東宝	伴淳三郎
155	1953/5/13	28年	あっぱれ五人男	松竹京都	アチャコ
156	1953/7/14	28年	ひばり捕物帖 歌祭り八百八町	松竹京都	美空ひばり
157	1953/8/11	28年	腕くらべ千両役者	新東宝	アチャコ
158	1953/8/26	28年	かっぱ六銃士	宝塚映画	アチャコ
159	1953/10/27	28年	大岡政談 びっくり太平記	新東宝	アチャコ
160	1953/12/22	28年	勢揃い大江戸六人衆	松竹京都	アチャコ
161	1953/12/28	28年	初笑い寛永御前試合	新東宝	アチャコ
162	1954/2/17	29年	花祭底抜け千一夜	新東宝	アチャコ
163	1954/3/24	29年	花吹雪御存じ七人男	新東宝	アチャコ
164	1954/5/3	29年	宝さがし百万両	新東宝	アチャコ
165	1954/5/19	29年	腰抜け狂騒曲	松竹京都	柳家金語楼
166	1954/9/14	29年	ハワイの珍道中	新東宝	アチャコ
167	1954/10/27	29年	仇討珍剣法	宝塚映画	アチャコ
168	1954/12/7	29年	怪猫腰抜け大騒動	東映東京	
169	1954/12/28	29年	浮かれ狐千本桜	新東宝	和田孝
170	1955/2/28	30年	爆笑青春列車	新東宝	アチャコ
171	1955/5/1	30年	歌まつり満月狸合戦	新芸術プロ	美空ひばり
172	1955/8/9	30年	花の二十八人衆	大映京都	勝新太郎
173	1955/9/6	30年	お父さんはお人好し	大映京都	アチャコ
174	1955/11/1	30年	親馬鹿子守唄	東映東京	榎本健一
175	1955/12/4	30年	東映家庭劇シリーズ 花ごよみ八笑人	東映東京	堺駿二
176	1955/12/12	30年	東映家庭劇シリーズ けちんぼ長者	東映東京	榎本健一

177	1955/12/14	30年	帰って来た幽霊	大映京都	アチャコ
178	1956/2/11	31年	お父さんはお人好し かくし子騒動	大映京都	アチャコ
179	1956/2/19	31年	お父さんはお人好し 産児無制限	大映京都	アチャコ
180	1956/5/1	31年	お父さんはお人好し 優等落第生	大映京都	アチャコ
181	1956/5/8	31年	お父さんはお人好し 迷い子拾い子	大映京都	アチャコ
182	1956/6/21	31年	権三と助十かごや太平記	東映東京	堺駿二
183	1956/6/28	31年	泣き笑い土俵入り	東映東京	
184	1956/8/1	31年	恋すれど恋すれど物語	宝塚映画	榎本健一
185	1956/8/22	31年	弥次喜多道中記	大映京都	市川雷蔵
186	1956/10/21	31年	金語楼の天晴運転手物語	新東宝	柳家金語楼
187	1957/1/3	32年	一夜の百万長者	大映京都	アチャコ
188	1957/2/27	32年	凸凹巖窟王 海賊船の巻	大映京都	勝新太郎
189	1957/2/27	32年	凸凹巖窟王 鬼月島の巻	大映京都	勝新太郎
190	1957/3/3	32年	体当り殺人狂時代	新東宝	池内淳子
191	1957/5/8	32年	大江戸人気男	大映京都	勝新太郎
192	1957/7/13	32年	南蛮寺の佝僂男	大映京都	アチャコ
193	1957/9/1	32年	坊ちゃん大学	東映東京	佐原広二
194	1957/8/8	32年	青空特急	東映東京	松島トモ子
195	1958/1/22	33年	おけさ鴉	大映京都	勝新太郎
196	1958/4/21	33年	一丁目一番地	東映東京	中原ひとみ
197	1958/5/12	33年	一丁目一番地 第二部	東映東京	中原ひとみ
198	1958/10/21	33年	底抜け忍術合戦	宝塚映画	三木のり平
199	1958/11/11	33年	底抜け忍術合戦 俺は消えるぜ	宝塚映画	三木のり平
200	1958/12/20	33年	勢揃い江戸っ子長屋	宝塚映画	三木のり平
201	1959/2/3	34年	大笑い江戸っ子祭	宝塚映画	三木のり平
202	1959/12/15	34年	爆笑水戸黄門漫遊記	東宝	柳家金語楼
203	1960/11/5	35年	社長野郎ども	新東宝	森川信
204	1960/11/26	35年	殴りこみ女社長	新東宝	アチャコ
205	1961/2/22	36年	誰よりも金を愛す	新東宝	三木のり平
206	1961/4/5	36年	私は嘘を申しません	しばたプロ	
207	1962/5/15	37年	大笑い次郎長一家 三ン下二挺拳銃	TR3プル	平凡太郎